

# 葦

大阪発達総合療育センター機関紙  
第44号 2022年春

社会福祉法人 愛徳福祉会

## 大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

### INDEX

・葦44号挨拶文	1P	・新入職員研修	3P
・葦44号によせて	1P	・リレーエッセイ	3P
・フェニックス園長就任挨拶	2P	・入職式	4P
・就任ご挨拶	2P	・寄付金と寄付物品	4P
		・職員研修実績状況	4P

### ■葦44号挨拶文

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

鈴木 恒彦



令和4年度をまたいで、新型コロナの感染収束が見通せない中でもフェニックス入所児の卒業式・入学式を無事終え、4月1日には30名の方々の入職式も厳粛に行う事ができました。まさに関係職員の方々のご努力とご苦勞によるものであり、感謝申し上げます。その後の新人職員研修の詳細は、看護部協師長の報告によくまとめられています。今年度からご就任された竹本潔フェニックス新園長、訪問看護ステーションめぐみの近藤正子新所長の御挨拶は、お二人のお人柄が示されて頼もしい限りです。奥野杏子整形外科医師によるエッセイは、日ごろ感じる“しっかり者”からは想像できないお人柄で、リラックスし120%お仕事ができるようにしたいですネ。

### ■葦44号によせて

大阪発達総合療育センター センター長

船戸 正久



今年もコロナ禍にもかかわらず30名の新入職員が入職していただき感謝です。入職式や新入職員研修会も様々な制限の中での開催でした。それでも入職式の日にはセンター内の桜も満開で迎えてくれました。今後の若い方々の活躍を期待します。例年のフェニックス利用者の方々の卒業式と入学式が無事行われました。本当におめでとうございます。

今回、フェニックス園長として竹本副院長が、訪問看護ステーションめぐみ所長として近藤相談室室長が就任しました。竹本氏は、フェニックス創設以来児玉元園長と共にその土台を築いてくれました。近藤氏は医療相談室を立ち上げ、絹川初代所長からの継承です。是非利用者の方々の地域支援の発展のために職員のご支援をお願いいたします。



## フェニックス園長就任挨拶

南大阪小児リハビリテーション病院副院長  
兼 フェニックス園長

竹本 潔



令和4年4月より第3代フェニックス園長を拝命いたしました。今まで同様、ご利用者さまが健やかで充実した生活が過ごせるよう微力を尽くす所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成18年4月にフェニックスが開設されて丸16年が経ちました。私は開設時に入職し現在までフェニックスとともに歩んで参りました。開設当初の、期待や不安（不安の方がはるかに大きかったように記憶しております）を懐かしく思い出します。初代の児玉和夫園長は、ご家族のご要望に沿って全国でもめずらしい個室を主体とした、かつ高い医療ニーズに応えられる施設を立ち上げられました。同時に、地域支援の柱として短期入所にも力を入れ、今では西日本最大規模のショートステイ事業所となっております。二代目の船戸正久園長は、大阪府下のNICUを有する急性期病院と連携して、これから退院して地域で生活を開始する医療的ケア児の在宅移行支援プログラムを立ち上げられました。退院する前に当院へ転院して約3か月間、医療的ケア習得やリハビリテーション、及びあらゆる生活場面（姿勢設定、食事、遊び、入浴など）での具体的な指導を行います。現在までにご利用された49人が退院して地域で暮らされ、定期的にショートステイにお見えになりました。

昨今はコロナ禍において、面会や日中活動、およびショートステイの受け入れに大きな制限をせざるを得ず大変心苦しく思っておりますが、これまでのフェニックスのよき伝統をしっかりと引き継ぎ、梶浦一郎前理事長のお言葉である「謙虚と挑戦」を地道に実践して参りたいと思っております。フェニックスの最も特筆すべき点は、多職種がお互いを尊重しながら、ご利用者さまのために同じ方向を向いて協働して支援していることにあります。これからもみなさまのご支援、ご協力をどうかよろしく申し上げます。

## 就任ご挨拶

訪問看護ステーションめぐみ 所長  
兼 地域医療・福祉相談室 室長

近藤 正子



2022年3月より訪問看護ステーションめぐみの所長に就任いたしました近藤正子と申します。センターには看護師で入職し、その後約10年、地域医療・福祉相談室に所属しソーシャルワーカーとしてセンターを利用される方々の相談支援を行っています。

船戸正久センター長が始めた「重症児の在宅移行支援プログラム」の中心的役割を担う中で、重症心身障がい児者や医療的ケア児者が地域で生活していくために必要な看護師としての医療面と、社会福祉士としての福祉面を意識し支援しています。多職種連携と一言でまとめることは簡単ですが、そこには本人とその家族の生活や本人のニーズ、社会参加が必ずあります。それを継続していくために、医療・福祉・保健・教育・行政等の専門職と情報共有をし、調整を図り、モニタリングをしています。利用者を通じて知り合った方々は、私にとっても貴重な社会資源です。

地域医療・福祉相談室長も兼務ですが、地域医療・福祉相談室で培った経験やさまざまな縁でつながった方との顔の見える関係を活かし、センターを利用される方々の力になれるよう、皆さまのご助言、ご協力をいただきながらこれまでと変わりにくく取り組んでいく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## フェニックス卒業式・入学式

3月24日にフェニックスに入所されている東住吉支援学校訪問籍の卒業式が行われました。小学部1名、中学部1名、高等部2名の方が卒業されました。

4月11日には入学式も執り行われ、中学部1名、高等部1名の方が入学されました。

コロナ禍で最小限の参加者で、支援学校の先生方のご配慮により無事終えることができました。



# 新入職員研修

看護部 師長(教育担当) 脇 暁子

2022年4月1日新入職員の入職式が行われ、今年度は30名(医師1名、看護部10名、療育部12名、リハビリテーション部6名、地域医療・福祉相談室1名)の新入職員を迎えることができました。

入職式に引き続き4月8日までの6日間にわたり新入職員研修を行いました。コロナウイルス感染拡大状況が続く中での研修であったため、演習の規制・黙食・研修中の試食会中止などいろいろな制限の中での研修となりました。

今年度の研修は教育研修部会で、新入職員が理解しやすいように改めて内容を検討し、法人の理念や運営方針、さらに利用者様のニーズに応える為の具体的な知識と技術の内容を考え組み立てました。また社会の動向も踏まえ、臨床心理士によるストレスマネジメントの講義も追加しました。研修後のアンケート結果より印象的であった内容を紹介します。まず鈴木理事長の講話をはじめリハビリテーション部の講師よりボバース概念の講義がありました。その中で紹介されたボバース夫妻の「患者様を宝物のように取り扱いなさい。リハビリテーションのできない患者様はいらっしゃいませんし、患者様とその家族に対し、リハビリテーションのできない言い訳も許されません。治療の責任はすべて私たち医療者側にありますから。」という言葉から「身の引き締まる思いがした」「自覚を持って業務を行いたい」などの感想が聞かれました。

また感染予防対策の研修として蛍光クリームとブラックライトを使用し手洗い演習を行いました。洗い残しが目で見てわかるため手洗い方法の意識付けとなりました。

最終日に行った利用者から学ぶ多職種連携の研修は病棟スタッフ(看護師・介護福祉士・セラピスト)が実際に実践している生活行為向上マネジメント(MTDLP)の事例紹介とグループワークを行いました。テーマである「利用者から学ぶ」の通り、実際に事例の当事者である利用者様に登場していただきZoomではありましたが、直接お話しを伺うことが出来



た貴重な時間となりました。この研修を通し「センターが目指す多職種協働の大切さを感じた」「今後チームの一員として多職種でディスカッションを行い利用者様の笑顔を守っていききたい」などの意見がありました。

多職種合同研修を行うことで連携の重要性を伝えることはできましたが、職種によっては医療・福祉の仕事が初めてであり専門用語の理解が難しい新入職員もおられたことから、今後は介護福祉士・保育士の資格を持つ職員にもわかりやすい研修を心掛けたいと思いました。またコロナ禍での研修であったためセンター内の見学も行えず、新入職員間の交流も十分できなかったことを残念に思っています。いつの日かコロナウイルス感染の心配なく研修が行える日が来ることを願っています。

そして、今後も利用者様の生活や思いにお応えできるよう、職員の教育体制の向上に努めてまいります。新入職員皆さん、これから一緒に頑張っていきましょう。

今回の新入職員研修の実施に関し快く講師をお引き受けくださいました先生方・講師の皆さま、ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。



患者さまを宝物のように大切に扱わないで、誠心誠意をもって！カレル・ボバース

リハビリテーションのできない患者様は、いらっしゃいませんし、患者様とその家族に対し、リハビリテーションのできない言い訳も許されません。治療の責任はすべて、私たち医療者の側にありますから。ペルタ・ボバース

## リレーイッセイ

整形外科 医師 奥野 杏子

許の実技試験では、直進で脱輪、一発再試験でした。頭が真っ白になり、「はい終わり～」と教官に言われてハッと意識を取り戻しました。だから本当はこう見えて、人前に出るのものがすごく苦手です。もっと緊張をコントロールできる方法があればリハビリの先生、どなたか教えて下さい。

次回は、療育部わかば 甲村職員です。お楽しみに！

この病院には緊張の強い方が沢山いますが、私はそれにも負けず劣らずの緊張しいです。小学校の時にはピアノの発表会で“かっこう”を弾くはずが、緊張で初めから手の位置を半オクターブ間違えて弾き終わりました。会場内の失笑も全く気付かずガチガチで、親からは「顔から火が出そうだった」と言われました。大学受験でも試験当日に高熱を出し、試験終了後に受験病院で点滴をしてもらってハメになってしまいました。もちろんその大学には落ちましたが、あの時以上に緊張することなんてないと思うようになって少しはマシになりました。それでも普通自動車免



写真は緊張感ゼロ、愛犬「ココ」です

# イベントトピックス

## 入職式

2022年4月1日に入職式を執り行いました。  
今年度は30名の新入職員を迎え、式の後に各種研修も実施しました。



## 感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます



### 一般寄付金

月	寄付者 (敬称略)	(R4.1 ~ R4.3)
1月分	ダイセル労働組合本社支部	本園
	1月分楽基金 3件	本園
2月分	山本 勲	本園
	鈴木 宏志	本園
3月分	3月分楽基金 1件	本園

### 寄付物品

寄付者 (敬称略)	物品名	(R4.1 ~ R4.3)
西村 光留	車いす	本園
匿名	おもちゃ	本園
勝又 咲大	プラレールセット	本園
匿名	紙おむつ	本園
匿名	ジャンパー	本園
第一生命保険(株)大阪南支社	ディズニーグッズ	本園
美濃部 和久、妙子	玩具、くつ	本園
石塚雄大、片岡徳政、笹島正毅	お菓子詰合せ 等	本園
野中 光	ジョグウォークSHBカバーシューズ	本園
よしだクリニック	動画編集ソフト	本園
匿名	紙おむつ	本園
匿名	歩行器、クラッチ	本園
江塚 大祐	バンピーナ	本園
富田 純子	SRCウォーカー	本園
匿名	ヴィーガミストライト(吸入器)	本園
匿名	ポータブルスパイダー	本園

## 職員研修実施状況

令和4年2月～

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和4年2月25日(金) 17:40～18:40	セーフティ マネジメント委員会 教育研修部	医療ガス安全管理研修会・ 医療安全研修会	(株)ババ 加納直輝氏 看護部主任 内本薫	85名	5階ホール他
令和4年3月29日(火) 17:40～18:40	教育研修部	「ボバースアプローチ」	リハビリテーション部 エキスパート理学療法士 日浦伸祐	79名	5階ホール他



## 大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)  
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)  
主として重症心身障がい児者  
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児  
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児  
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)  
なでこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21  
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会  
発行責任者・鈴木恒彦

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)  
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856  
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)  
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856  
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)  
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児  
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児  
〒552-0004 港区夕凪2-5-3  
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524